

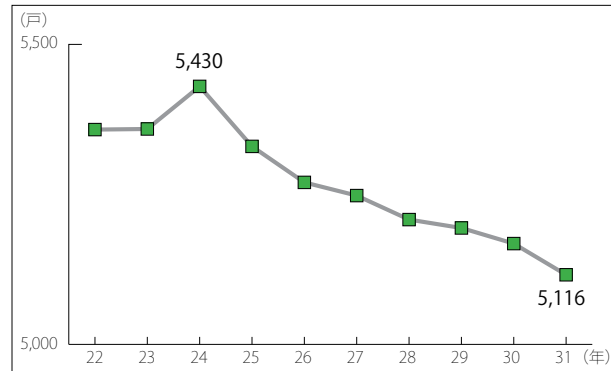
つなぐ

とともに、それまでの戦時体制の部は廃止され、現代にまでつながる、環境保全や情報の伝達、青少年の見守りなどの役割が中心となっていきます。

倶知安には96の町内会 加入世帯は減少傾向

倶知安町には、96の町内会があり、加入戸数が10戸に満たないものから400戸を超えるものまで規模の大小はさまざまです。今年4月末時点で5116戸（企業などを含む）が町内会に加入していますが、その数は年々減少傾向にあります。

倶知安町における町内会加入戸数の推移（平成22年～平成31年）



加入を呼びかける 町の取り組み

町は、転入者にチラシを配ることで町内会への加入を呼びかけています。さらに、平成30年12月「倶知安町町内会等への加入及び参加を促進する条例」を施行し、現在、加入を呼びかける際の手引きを作成中です。これからの取り組みを進めることで、誰もが安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティの実現を目指します。



転入者に配布しているチラシ
(住民環境課作成)

地域コミュニティの 時代に合った形とは

時代とともに、ライフスタイルは多様化し、家族構成などが変化する中、昔から続く地域コミュニティ「町内会」のあるべき姿や取り組みも、時代に合わせて変わっていく必要があるのかもしれない。

皆さんは「町内会*」と聞いてどのようなものを想像しますか。中には、月々の会費を納め、かつ役員までやらなければいけない煩わしいものというイメージを抱く方もいるかもしれません。しかしながら、数十年も前から、全国各地どの地域にも町内会やそれに類するものが存在しているのは、やはりその組織が必要であるためです。ただ煩わしいだけのものであれば、その仕組みは、すでに無くなっていることでしょう。

昔から変わらない町内会という組織。そのあり方が今、時代とともに変わってきています。今月号の特集では、倶知安町にある町内会の活動を紹介するとともに、地域コミュニティの必要性について考えます。

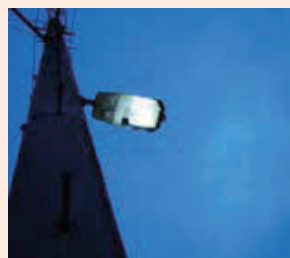
町内会* ～地縁に基づき形成された自治組織で、自治会や自治振興会、その他の団体を含む

意外と知らない!?

町内会が管理している あれ や これ

交通安全の旗

倶知安町交通安全推進委員会が作成している黄色い旗。町内会に必要な枚数を配布し、主に通学路などに設置されています。



街路防犯灯

暗い夜道を照らしている街路防犯灯の中には、町内会で設置・管理しているものがあります。なお、設置に係る料金や電気料の一部を町が補助しています。

私たちが安全に安心して暮らすために
町内会が管理しているものがあります。

ごみステーション

ごみは、どの家庭からも必ずと言っていいほど排出されるもの。ごみステーションの掃除や除雪は町内会が行っています。



有事に頼りになるのは 人とのつながり

昨年9月、胆振東部で発生した地震により北海道全域がブラックアウト。倶知安町に住む私たちは、停電によりこれまで当たり前だと思っていた暮らしが一時的にできなくなりました。その時、食材や懐中電灯などを持ち寄って、ご近所同士で助け合い、励まし合いながら過ごした方もいたことでしょう。いざという時に頼りになるのは、近隣住民とのつながりであり、地域のつながりをより一層強めるものが町内会です。

昭和初めから時を重ねて 現代に続く町内会の役割

町内会とは、同じ地域に住む人々・企業などによる、親睦や生活環境の改善・向上を目的とした集まりのことで、倶知安町における町内会の歴史は、昭和16年にまでさかのぼります。日中戦争が長期化する中、国内の戦時体制づくりを目的として、町内会および部落会が結成されました。終戦直後の昭和21年には、大幅な機構改革が行われる



樺山町内会 会長
石塚 宣夫 さん

定年退職後、第二の人生をこの地で歩むため倶知安町へ移り住み、10年ほど前から樺山町内会の会長を務める石塚宣夫さんに話を聞きました。



**住民の移り変わりが多く
いろいろな国や地域から**

樺山は、かつて農業者が多い地域でしたが、長く住んでいた方の大半は、高齢になるにつれて町外へ転居してしまいました。一方で、若い方や外国の方など転入者も多く、今では国籍問わずさまざまな人が暮らす地域となっています。

**住民を孤立させないため
防災の必要性を呼びかけ**

樺山町内会では、防災計画策定委員会を立ち上げ、現在、災害時の避難経路などを示した「樺山地区防災計画」の作成に取り組んでいます。町内会が地域の実情に合わせ、いざという時の対応を自ら考えて共有することは、防災への意識づけとしても重要です。また、町内会が住民の安否確認などをスムーズに行うためにも、誰がどこに住んでいるのかを把握しておく必要があります。新たにこの地域で生活を始める皆さんには、災害への備えの必要性を町内会への加入とともに呼びかけています。

変わりゆく

町内会の 取り組み

町内会加入世帯が減少傾向にある中、倶知安町の各町内会は、できるだけ多くの人に参加してもらうため、呼びかけの方法や取り組みを工夫しています。

「町内会では、どのような活動をしているの？」ここでは、その事例を一部紹介します。



北斗振興会が所属する北央コミュニティ協議会の夏祭り

北斗振興会 会長
廣瀬 文夫 さん

倶知安町で生まれ育ち、30年ほど前から北斗振興会に加入。現在は会長を務める廣瀬文夫さんに話を聞きました。



**小中高校のある地域
通学する児童・生徒が多く**

北斗振興会は、70歳以上が会員の3分の1を占めています。が、小中高校や集合住宅があることなどから子どもも多く、幅広い世代が住む元気のある町内会です。

**日ごろからの声掛けで
子どもたちの安全・安心を**

新入学の時期には、会員が通学路に立ち、町内会として児童・生徒に交通安全を呼びかけています。初めは、戸惑う子もいますが、何度か顔を合わせるうちに、子どもたちの方から積極的に挨拶してくれるようになります。町内会活動だけではなく、普段からつながりを持つことで、互いに声を掛けやすくなりますし、多くの大人が見守ることで、交通安全や防犯の面においても、子どもやその家族の安心感が強まると思います。

**身近に感じてもらうため
取り組みを工夫して**

町内会を身近に感じてもらえ

**文化の違いを認め合うこと
互いの歩み寄りが国境を越える**

外国の方に、町内会に加入してもらうためには、居住形態などに合わせて柔軟に対応することも必要です。また、加入した後、地域コミュニティの必要性をより深く理解してもらうための工夫として、私たちの町内会では、外国の方にもわかりやすいよう、総会資料の表記を和暦から西暦に変えるなど、できることから始めています。円滑な地域コミュニティの運営に、国籍の違いは関係ありません。文化は違えど同じ人間ですから、互いに歩み寄ることで分かり合えると思います。

**気軽に声を掛け合うことで
新たなコミュニティの輪を**

たとえ、暮らす期間が短い方であっても、互いにコミュニケーションを取り合うことで、新たな人間関係を築いていく必要があります。ご近所同士が気軽に声を掛け合えるようなつながりを広げていくよう、努めていきたいです。

町内会 に 加入 しませんか？

隣に住む者同士のつながりが地域へ、そして町全体へと広がっていきます。人と人とのつながりの輪を広げることで、誰もが暮らしやすい町をつくりませんか。

「町内会ってなんだかおもしろそう」「加入してみようかな」と思った方は、気軽に問い合わせください。

住民環境課生活安全係 ☎ 56 - 8005
倶知安町町内会連合会 ☎ 22 - 4150

るよう、会の活動や会員を紹介する内容の町内会報を頻繁に発行するようにしています。

その他、町内会の行事について、以前は、バスを借り上げて町外へ旅行をしていましたが、若い世代は仕事や子どもの行事などで忙しく、また、お年寄りでは体力的に遠出が難しいことから、最近は、地域内広場での焼肉パーティーなど、誰でも参加しやすい行事を開催しています。その際、事前の申し込みなどは必要なく、子どもと70歳以上の方は、参加無料としています。

**会員同士のつながりを深め
誰もが暮らしやすい地域へ**

一人暮らしのお年寄りや子育て世帯など、さまざまな人が暮らす中で、町内会に継続して加入し、活動にも参加する人が多いのは、地域の親睦や子どもの見守りなど、それぞれが、町内会に加入することに価値を見出しているからだと思います。会員同士のつながりを強めることで、子どもからお年寄りまで、誰もが安心して暮らせるような地域にしていきたいです。